

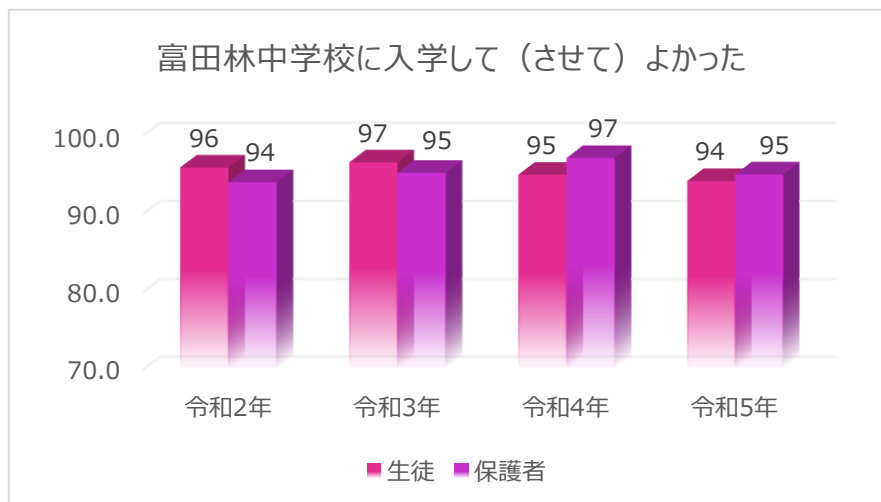
(参考資料)

## 令和5年度 富田林中学校 学校教育自己診断結果について

### ✚ 学校満足度は、生徒・保護者ともに、概ね高水準を維持（生徒・保護者）

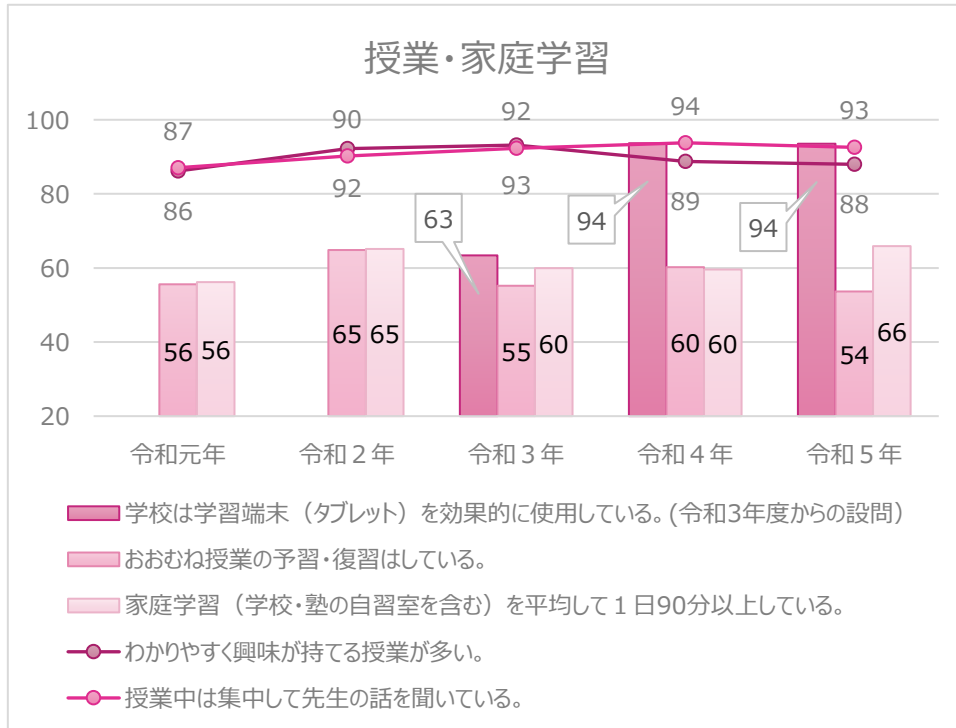
生徒の「34. 富田林中学校に入学してよかった」保護者の「31. 富田林中学校で学ばせることが出来てよかった」で、それぞれ、94.5%、95.4%と、例年並みの水準を維持している。学校の友人関係や教職員との関係に満足している生徒の割合はそれぞれ 92.6%、90.0%で、教員との関係性が、例年より3.8%アップした。（昨年度は86.2%）

また、学校行事に関しても、文化祭や体育祭、宿泊での修学旅行など、すべての行事を通常通り行うことができたことが、今回の肯定的な結果につながったと思われる。来年度は、さらに充実を図りたい。



### ✚ 授業中の集中度は増しているが、予習・復習など、自習時間に不安（生徒）

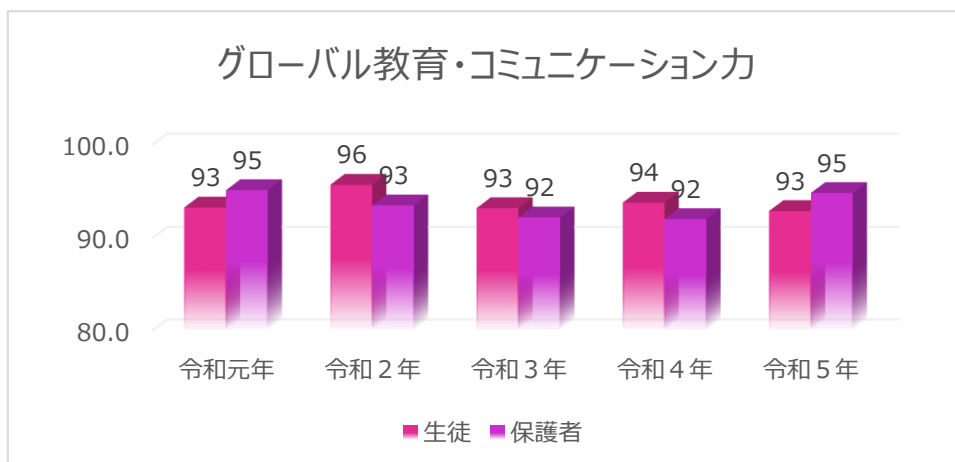
授業についての評価は、生徒の「1. わかりやすく興味が持てる授業が多い」で88%、「4. 授業中は集中して先生の話を聞いている。」で92.6%と高い水準を維持できている一方で、「7. おおむね授業の予習・復習はしている。」で53.6%、「10. 家庭学習（学校・塾の自習室を含む）を平均して1日90分以上している。」で65.9%とやや低水準となっている。とりわけ、項目10に関しては、学年別で、中1が86.5%、中2が64.1%、中3が47.1%で、中学2年生、3年生での学習時間の少なさが目立つ。中・高連携してこの状況に対して対策を講じていきたい。また、令和5年度全国学力学習調査（中学3年対象）においては「3時間以上使用」と答えた生徒は本校が0%であるのに対し、全国は2.1%となっている。校則の見直しも含め、タブレットを用いた通学途中などのスキマ時間における学習も必要と思われる。



### ✚ グローバル教育については一定の高水準を保つ（生徒・保護者）

今年度は、少しずつ海外と交流する機会が増え、夏休みに台湾、マレーシアへのグローバルリーダー育成研修（希望者）を行った。中学校からはマレーシアに16人、台湾に11人参加し、事後のアンケートは良好であった。

「31. 学校は国際交流、イングリッシュ・キャンプ、海外研修等を通して、グローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている。」の項目については、92.9%と令和元年以来高水準を保っている。来年度以降は、海外修学旅行の再開など、できることを模索していきたい。



## ✚ 総合的な学習の時間「探究」で全国発表を実施

今年度は、『探究学習を通じた「グローバル・サイエンスリーダー」育成プログラムの開発と実践』というタイトルで、12月13日（水）に校内で全国発表、15日は鳥取県で行われた全国コミュニティ・スクール研究大会で発表を行った。そこでは、企業や団体、大学などの外部機関と積極的につながり、産官学協働による社会に開かれた教育課程（カリキュラム）を実現した「探究学習」の実践方法やコミュニティ・スクールの特性を最大限に活用して外部機関と連携することで、教員の負担を軽減し、生徒の教育に集中できるようになった仕組みづくりも披露した。

生徒回答においても探究活動が充実し、それに伴い考える力、情報収集力、プレゼン力が向上していると分析できる

教職員の「10. 生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力などが身についた。」や「26. 企業・大学・自治体等の外部団体との連携による教育活動の充実に努めている。」の項目については、肯定的回答率が100%となった。

コミュニティ・スクール制度の効果的な活用により、教育力の向上と共に教職員の働き方改革が進んだことが伺える。

